

開催日：令和6年7月30日（火）

場 所：たかつガーデン コスモス

令和6年度 大阪府栄養士会 学校健康教育部会 研修会

講演1「栄養ケアプロセス

～児童・生徒への教育に活かす～

講師 大阪公立大学医学附属病院

栄養部 保健副主幹

藤本浩毅氏

講演2「栄養ケアプロセスを学校の食育へつなげる」

講演3「食に関する指導の手引」（第6章）

の解説

演習「個別的な相談指導の演習」

講師 文部科学省 食に関する健康課

課題対策支援事業ファシリテーター

田尻町立中学校 指導栄養教諭

市政雅美氏

講演1は、栄養管理プロセスの基本を学ぶ研修会であったが、内容は、学校という教育の現場で、児童・生徒へ活用することを目的に行われた研修会であった。そのため、例として提示される内容は、学校で働いていると身近に感じるものに工夫されていた。文部科学省から出ている「食に関する指導の手引～第二次改訂版～」に記載されている「個別的な相談指導の詳細な方法の（例）」を確認した後、栄養管理プロセスについて詳細な講義が行われた。栄養スクリーニングの後の、栄養評価（アセスメント）の内容では、成長曲線の見方や、肥満度の計算方法、Waterlow分類について説明があった。PES報告の「P：問題、E：原因、S：徴候/症状」等の説明があり、「Sの根拠に基づき、Eが原因となった（関係した）、Pの状態である」方法を、学校でおこりえる内容で報告する事例の説明があった。栄養診断については、世界的な標準のコードがあり、優先順位の高いものから、最大で3つくらいをつけるとよいことの説明があった。栄養介入では、PES報告をもとに、Mx：モニタリング計画、Rx：治療計画、Ex：

教育計画をたてていくとよいことの説明があった。その後、これらをもとに「叙述的経過記録SOAP」（S：対象者の主観的な訴え、O：身体測定・食物や栄養の摂取状況、A：AとOからの評価とPES報告、P：Mx・Rx・Ex・）としてまとめる説明と演習を行った。

講演2、講演3、演習では、講義、演習、グループワークを行った。

栄養ケアプロセスを学校で活用していく方法についての講話があった。個別的な相談指導においては、児童生徒及びその保護者が満足する成果を得られるように、との話があり、個人目標の設定にあたっては、本人が決めることが大切であることの話もあった。また「食に関する指導の全体計画」と「個別的な相談指導」の関係についての説明もあり、全体計画を作成するときに、学校の実態としての健診結果からわかる数値等を記入しておくことで、学校全体で取り組み、年度末に評価がしやすい旨の説明があった。学校では、年度をまたがない期間や目標を設定することが、取り組みやすいとの話もあった。

文部科学省のホームページには、令和5年度に全国で取り組んだ「食に関する健康課題対策支援事業 栄養教諭が行う個別的な相談指導」の内容があり、参考になるとの紹介があった。演習やグループワークを通して、個別的な相談指導の方法や内容について、情報を共有することができた。参加者の感想には「小児の事例をもとにお話いただき、大変わかりやすく理解がすすんだ」などがあった。好評な研修会となった。

（文責 学校健康教育 大門孝子）